



訓練で寄せられた情報をまとめる斎藤弘美さん
 4月中旬、静岡市駿河区の駿河消防署

静岡市消防局駿河消防署の主査斎藤弘美さん(37)が今春から、災害現場の司令塔となる指揮隊に配属された。同消防署の女性指揮隊員は初めて。斎藤さんは「消防の仕事が女性の職業の選択肢の一つとして普通になってほしい」と先駆者としての意気込みを語る。

静岡・駿河消防 初の女性指揮隊員

最前線で司令 道開く



斎藤さんは県警の警察官として定年まで勤めた母の弥生さん(66)の姿に憧れ、一人の助けになれた。

報をボードに書き込んだ。大隊長の大石光さん(47)の進入経路など、署員から情報が寄せられるたびにボードに加筆した。

斎藤さん「選択肢の一つに」

「建物の5階から出火」。4月中旬、同消防署で行われた訓練で、斎藤さんは火元に関する情報、大防災研究所巨大災害研

場での消火活動や通信指令の業務に従事してきた。現場への消防車両の運搬も任されている。「なりた」と思ったら男女は関係ない。女性だからと認める必要はない」と強調する。小沢富雄署長(59)は

本県の女性消防職員 年々増加

斎藤さんが所属する駿河消防署は167人体制で、女性署員は5人。市消防局全体では1037人中、女性は34人が在籍している。同消防署によると、過去に市消防局で2人の女性が指揮隊の隊員に任命されている。県全体では、消防士として採用されている2018年度の女性消防職員は124人と全体の2.7%。県消防保安課によると、09年の59人(同1.4%)から毎年増加していて、女性の割合は全国平均と同程度という。担当者は「まだ女性の割合は少ないが、各消防の積極的なPR策や、仮眠室など女性専用設備の整備が実を結びつつあるのでは」と分析している。

究センターで研究生として学んだ。2007年に市消防局に入り、これまで火災現場から「これから消防を自給する人の理想像を築いてほしい」と期待を寄せた。(社会部・伊藤龍太)

2019年
5月21日
夕刊

① 記事を読み、日本のジェンダー平等について考えを述べよ。

② 自分の住む地域を都市防災、特に火災予防の観点にて概説せよ。

③ 1996年(平成8年)以降の全国火災発生原因の第1位は放火である。自宅をこの犯罪から守るために今すぐ出来ることを列挙せよ。

年 組 名前

作問者: NIEアドバイザー 実石 克巳(静岡県立静岡高校 教諭)

(高校/国語)

<参考> ①=社会学に関する問題、②=防災学に関する問題、③=犯罪学に関する問題